

学校経営方針

京都市立西院小学校

1. 学校教育目標

自ら考え行動し、夢に向かって進む心豊かな子どもの育成
～一人一人が輝く西院の子～

社会の急激な変化が進む中、我が国が目指すべき未来社会の姿として、Society5.0が提唱されている。社会が変われば働き方も変わり、社会に必要とされる人材育成の面からも、学びが変わることは必然のことである。また、新型コロナウイルスの対応は、長期化が予想され、収束と再流行を繰り返していくものと思われる。先行き不透明で、VUCAな時代を生きる子どもたちのことを考えると、これまでの20世紀型と呼ばれる教育から脱却し、子どもたちにどんな力をどのように育てていくかを明確にし、教育活動を進めていかなければならない。そして、これからの学校は、コロナ禍前と同様な教育活動を進めていくことは難しく、前例に捉われず、過去や固定概念から脱却し、新しいやり方、新しい道を模索し、新たな学校教育の在り方を確立していかなければならない。

こうした時代を生き抜き、子どもたちが、自ら豊かな人生や社会を拓いていくためには、社会の変化や直面する問題に主体的に向き合い関わり合っていく力と同時に、他者と協働しながら問題を解決していこうとする能力が重要である。そのため、子どもたち一人一人のよさと可能性を伸ばし、ICTの活用など、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。

学校教育目標実現に向け、「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善に取り組んでいく。また、生徒指導の三機能を全教育活動の基盤とし、児童一人一人の「自己指導能力の育成」を大切にしたい。そして、子ども一人一人が、「教室に居場所がある。」「支えてくれる仲間がいる。」「わかってくれる大人がいる。」「学校は、安心・安全な場所である。」と感じ、あらゆる人間関係の中で大切にされているという実感をもてるような学校にしていきたい。

2. 目指す学校像 子どもが毎日楽しく通える学校

3. 目指す子ども像

- ・ 自ら進んで学習し、互いに高め合う子（知）
- ・ 互いに認め合い、自分も友達も大切にする子（徳）
- ・ 身も心も鍛え、命を大切にする子（体）

4. 今年度の重点 主体的、対話的で深い学びのある授業の構築

5. 目指す子ども像の実現に向けて今年度特に力を入れたい取組

授業においては、「主体的、対話的で深い学び」となるよう、「知識構成型ジグソー法」等の手法を用い、ICTを活用した協調学習を推進し、自分のおもいをしっかり伝え、互いに話し合い、高め合う力を伸ばしていく。教育活動の基盤として、生徒指導の三機能を意識した学級経営を行う。

その中で、以下の点に特に力を入れて取り組んでいく。

- (1) 知識構成型ジグソー法を用いた「主体的、対話的で深い学び」となる協調学習の授業実践（東京大学 CoREF との連携）
- (2) 生徒指導の三機能（「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」）を基盤にした教育活動
- (3) 「西院の子 心でつながる5つのやくそく」の実践

6. 目指す教職員像

教育者としての責任を自覚し、確かなビジョンと力量を持つ教職員

